【議事】定 11

（2）JEM 運用･利用事業への民間活力導入に係わる企業選定結果について

JAXA の山浦室長が資料 11-2（JEM 運用･利用の民活）を説明した後、活発な質疑応答があった。（JEM の運用等を外部委託することについて、公募･選定の結果を報告した。JEM 運用を JAMSS に、ユーザー支援業務を日本宇宙フォーラムに決めた。利用サービス提供業務は応募者を不適格と判断した。）

池上：JEM ということであるが、今まで行なった宇宙実験は対象になっているのか。

JAXA 山浦：JEM が上がったら、（打ち切られる。）

池上：後の話をしているのですか。

JAXA 山浦：そうです。

池上：そうするとこの図の 2[1]が、既に 19 年度にもうリソース、人と金を使っていることですね。縦軸。此れ、縦軸は何なのですか。

JAXA 山浦：此れはイメージ図ですが、民間活力をどう使うかということを、民間と JAXA の間でどちらがどれだけ裁量を持ってやったか、裁量の主体を表しており、民間は右に行くほど高くなっているのは、民間の最良の部分がイメージ的に此れくらいで、わが方は極めて限られた機能、役割のところでやる。後は、民間は、JAXA からの契約ではあるがしっかりやるという意味である。

池上：それは非常に危険な絵ですね。ぱっと見ると、今年度の当初予算の半分で 22 年以降はやるように見える。それで結構なのですがね。

JAXA 山浦：そういうことではありません。この高さは、年度々々に、アバウト何対何出位で主体性を持ってやれるかを表しているものである。

青江：仕事量のトータルのボリュームは落ちないのか。今、裁量と言われたが、正に仕事の量でしょう。仕事の量が此れだけ民間側に増えるということでしょう。

池上：そうすると経費、リソースもそれだけ減るように、（切られる）

青江：仕事の量は同じなだから、基本的に必要とされるお金の量は同じなのです。それを民と官でどういう仕事の量を分担して、トータルの仕事をするかという図である。

JAXA 山浦：元のお金は JAXA です。

池上：すると、アウトソーシングの言葉の使い方が違う[2]。通常アウトソーシングと言うと、民間に移して JAXA の予算は減りますよという話である。アウトソーシングという言葉は割りと不用意に使っていますが、通常そうですよ。

JAXA 山浦：アウトソーシングの言葉の遣い方に気を付けろという本もあったが、此れも、その道の専門家の助言によると、民活の一環であり、アウトソーシングの一環である。この定義には間違いが無いそうです。ただ、同床異夢になりやすいのは事実です。

---

[1] 図の背景のように扱われている、官民の分担らしきものを指摘。縦軸に何も単位が書いてないのに、「リソース=人と金」と決め付けている。

[2] 「ソース=資源」を「資金」と考えるか、「労働力」と考えるかの違いが在るようである。山浦さんの回答の通り、どちらの考えも正しいのであろう。「民活」の用語でも、此れと同じ誤解が生じるであろう。

松尾：一寸判らなくなってきたのだが、お金の量は JAXA のお金で元々変わりませんと。仕事の量も同じです。分担が変わります。一体何をしようとしたのか。[3]

JAXA 山浦：数年前から、将来はできるだけ民間にお願いしないといけないと考えていた。もしこのような考え方を入れずにやったらどうなるか、ということとの比較の絵ではないかと思う。此れのもう一つの絵、比べるべき絵としては、この考えを入れなかったものが有ると思う。仕事のやり方や、そこに掛ける人数が、JAXA 側、民間側がどう違うか、更には、どのような人に仕事をお願いしていくかというところに行き着くわけで、此れは仕上がりの姿で書いたので、あたかも何かのグラフのようになってしまった。

松尾：わかりました。もう一枚絵がある。

JAXA 山浦：実際には、我々が、ああでもないこうでもない、こういう場合はどうで、こういう場合はどうで、色々のケーススタディを中でやった。

青江：これは、JAMSS に行なわせることは、民活ではなくアウトソーシングだということだと思っている。それで経費がある程度効率化されることになると思う。それはそれでそういうものだと思う。要するに手を上げてきた人が一人しか居ないのだから、それは仕方が無い。それはその通り。

真の意味、本当の民活は、有償利用の事業である。是非、やったほうがグンと良い筈だと思うので、先ほどの説明のような手順を踏みながら、民活をきちんとやっていただくような体制に、是非、持っていって欲しい。

松尾：何でそれが真の民活に相応しいかについて、若干説明が要ると思う。

青江：其処は、営業活動。所謂、お金を払ってでも使いたいという人が、日本のマーケットの中にどれくらい居るのかはあれですけれど、其処を掘り起こしながらビジネスプランに繋げていく、其処の活動だと思う。それは、JAXA のようなコウホウ人より、私企業のベンチャー的なマインドを持った人の方が、遥かに得手であろうと思うからである。

池上：今のところのポイントなのだが、利用サービス提供事業に応募する人が居なかったのは、ビジネスとして魅力が無かったからである。簡単な話で、魅力があれば民間は当然入れる。今やらなければいけないのは、宇宙空間にある研究室が魅力的な場所であるということを、一応アウトソーシング的なものでやろうとしている二つの企業に努力してもらい、どのような努力かは具体的には何もいえないが、変えていくことが一つのポイントではないかという気がする。

JAXA 山浦：此処に提案はございました。1 社から。

池上：ああ、1 社からあった。

JAXA 山浦：但し、残念ながら、我々の基準に照らして考えると、今回、この仕事を纏めてお願いするという訳にはいかないと結論を出した。

池上：それは、ラメー関係には疎い?

JAXA 山浦：いえ、同じ運用の

池上：あ、仲間?

---

[3] 先ず、JAXA の人手不足の解消があろう。また、「民間活力の導入」「民の出来ることは民で」の潮流に乗せやすい候補を探した結果であろう。「訓令」であるべきものが、具体性を帯びた「号令」に聞き誤ると、このような結果に陥る。

JAXA 山浦：運用を提案した会社と同じ会社です。残念ながら一寸。従って、意欲はお有りだったとは思いますが。

松尾：魅力については、計画部会で ISS を扱ったときにやったが、しかる（聞き取れない）かもしれません。

青江：今言われたのは正に、この黄色いところ（2 ページの図 1 の真中「利用サービス提供事業」を指している）此れがサービス事業ですからね、此れがビジネス（紙を叩く）なんです。今言われたことも重要ながら、この有償事業という枠組みの中で、プライベートカンパニーがとにかくあの実験室を使ってどんなことをやるか、此処のところの魅力、乃至、事業展開が広がらないと、寂しいですね、と。其処を、どうにか広がるようにご努力を頂く、それは、やはり、山浦さんみたいにコウホウ人の職員よりも、そうではない人の方が、多分、より活発に出来るでしょう。だから、それはそういう人、間に立って其処を掘り起こしてくれる人、見つけてくれる人を見つけて、その人に託して出来る限り幅広い有償利用、お金を払ってでも使おうという人、が増えるように是非お願いしたい。ということです。

松尾：だから、お二人でその困難さを両面から向けられているように思いますけどね。JAXA の人は駄目でしょうという話、まあ、それは良いとして。池上さんの仰っているのは、上（打上げられた JEM）に魅力が無ければ有償の客も来ないでしょう。そういうことを仰っているわけで。頑張りましょう。

JAXA 山浦：はい。まあ、あの、やりやすさを追求したいと思います。

（3）「はやぶさ」の現状について

JAXA の川口教授が資料 11-3（はやぶさ）を説明した後、松尾委員長から励ましの言葉があった。（3 個中 2 個のフライホイールが故障し、イオンエンジンで姿勢制御しながら、4 月中旬のイトカワ軌道離脱を目指している。）

松尾：「はやぶさ」は此れまで幾多の困難を乗り越えてきた。そうはいっても、此れは中々楽観を許すようなものではない。幸運を祈ります。